

坂出・綾歌支部 活動報告

1 研究主題

確かな学力を育むための「わかる授業」の創造
—メディア活用の目的を明確にした授業づくり—

2 はじめに

「生きる力」を育むという学習指導要領の基本理念を実現するため、基礎的・基本的な知識と技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力の育成などがポイントとしてあげられている。特に、多様な情報の中から必要な情報を効率的に選択し、それらをもとに自分の考えや思いを主体的に表現・発信する力を図ることが学校教育に求められると考えられる。それはまさにメディア教育の担う役割であり、加速化している高度情報社会においてその役割はますます大きくなっている。

そこで、本部会では、「わかる授業」の創造を通して、生徒個々の確かな学力の育成を目指すこととした。「わかる授業」づくりの方法・技術等を整理し明らかにしながら、より効果的な質の高い教育実践に繋げていくための「メディア活用」の在り方について、実践研究を踏まえて検討を行った。

3 研究計画

(1) 5月2日

場所：坂出市立白峰中学校

内容：研究組織及び主題の決定、研究の進め方についての共通理解

(2) 7月1日

場所：宇多津町立宇多津中学校

内容：研究授業、研究討議、各中学校での

実践事例についての情報交換

(3) 10月22日

場所：坂出市立坂出中学校

内容：研究授業、研究討議、各中学校での実践事例についての情報交換

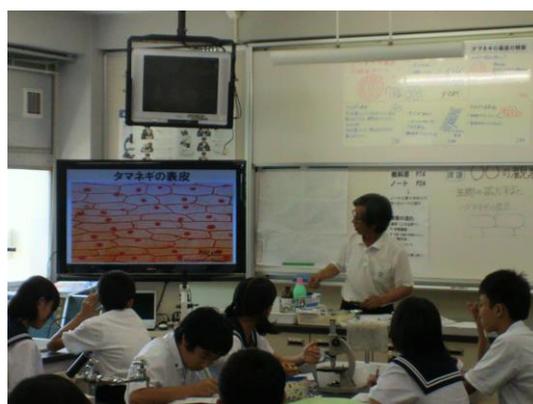
4 研究内容

(1) 研究授業 I (7月1日)

ア 第2学年 理科

題 材 細胞の観察

授業者 松尾 行晴



イ 本時の目標

動物と植物の細胞のつくりの違いを観察によって見つけ出すことができる。

ウ 学習指導過程

(ア) 導入

- ・ 1年時の復習をする。
- ・ 本時の学習課題を知る。

(イ) 展開

- ・ 観察の手順を知る。
- ・ 酢酸カーミン液で染色して観察する。

①タマネギの表皮

②オオカナダモの葉

③ヒトの頬の内側の細胞

(ウ) 発表

- ・顕微鏡を使って観察しワークシートに記録する。

(エ) まとめ

- ・グループごとに話し合い、共通点と相違点をまとめる。

エ 討議内容

今回のICT活用は、大型テレビへ提示した映像や画像を全員の生徒で共有し理解を深める実践であった。理科の実験手順を動画で示すことや顕微鏡から見える実物を拡大提示することで、活動内容を早く理解させ実験をスムーズに進めることができたし、見えにくい部分のしくみを容易に理解することができた。また、接続端末をタブレットやスマートフォンにHDMI端子を活用することで、移動先の教室ですぐに活用できるICTの即時性を発揮していた。

(2) 研究授業Ⅱ (10月22日)

ア 第2学年 数学

題 材 かえるの引越し

授業者 藤原 健太郎

イ 本時の目標

- (ア) 学習目標や操作活動に対して、興味関心をもって取り組むことができる。
- (イ) 多数回の試行から、規則性に気づき周囲に自分の考えを伝えることができる。

ウ 学習指導過程



(ア) 学習課題の確認

- (イ) かえるの移動を考え、ワークシートに記録する。
- (ウ) 全体で発表し、まとめをする。

エ 討議内容

各班に配布されたタブレットを活用して生徒自身が学習を展開していく画期的な授業であった。台数に限りがあるため交代での活用であったが、周りで見ている生徒も一緒に課題を共有して生徒各自が試行錯誤しながら流れる授業であった。終末の全体発表では、代表生徒がタブレット端末を操作して黒板のスクリーンに拡大提示し成果を発表した。

5 今後の課題

今回の実践研究では、タブレット端末の活用が多く提案された。初めて操作する人でもすぐに活用できたことや移動した場所でも活用できるため、運用面全般にわたり即時性の高さを実感できた。今回の研究成果は、各校でタブレット端末等を予算要望するための根拠に繋がるものとする。ICT機器導入に伴いそれらを管理するサポート支援が課題となっている。行政機関に現場の実態を報告するとともに、教員以外で専門家を依頼するなど機器と授業支援を維持管理する人材の確保が求められる。